

# 福田川水系河川整備基本方針

京 都 府

(平成13年3月21日)

# 目 次

## (1) 福田川水系の総合的な保全と利用に関する基本方針

- ①流域及び河川の概要 ..... 1
- ②河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 ..... 2

## (2) 河川の整備の基本となるべき事項

- ①基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ..... 3
- ②主要な地点での計画高水流量に関する事項 ..... 3
- ③主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項  
..... 3
- ④主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項  
..... 4

## (1) 福田川水系の総合的な保全と利用に関する基本方針

### ①流域及び河川の概要

福田川は、京都府竹野郡網野町に位置し、その源を久次岳（標高541.4m）に発し、網野町の中央部を北に貫流して、公庄川、新庄川をはじめとする支川を合流した後浅茂川漁港で日本海に注ぐ二級河川である。本河川の幹線流路延長は12.4km、流域面積は河口部で30.5k㎡である。流域の約80%がアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ林など代償植生が多くを占める山地で、市街地は下流の平地部のみである。

流域の気候は、典型的な日本海型の気候で、年平均降水量は1,800mm程度、冬季の降雪、梅雨期及び台風期の降水量が多く、特に台風期の豪雨により災害が多く発生している。年平均気温は13.6℃で対馬海流の影響で冬季も内陸の京都市等に比べて温暖である。

福田川流域では、過去において集中豪雨等により大きな水害が発生しており、明治32年8月の台風、大正7年9月の大出水、昭和9年の室戸台風、昭和34年の伊勢湾台風等では、堤防の決壊や溢水により網野町市街地が床上1mまで浸水したのをはじめ、橋梁の流失等大きな被害が発生している。

さらに、現在の河川改修事業の契機となった昭和47年9月の豪雨、最近では平成10年9月の豪雨などで、川幅の狭い中流部から下流部までの広い区間で越水及び溢水を生じ、網野町市街地が浸水する被害を度々受けている。

また、新庄川は、川幅が狭く流下能力が低いことから、ほぼ毎年溢水し、家屋浸水や道路冠水により地域住民の生活に大きな支障が生じている。

河川環境の特性としては、岩止橋から上流は、山と谷底に形成された農地の間を縫うように流れる急勾配の堀込み形状の河川で、豊かな自然環境が多く残っている。河床は砂礫や大きな礫で覆われ、川幅の比較的余裕のあるところでは、みお筋や瀬、淵の形成が見られるが、落差工の設置により平坦化した区間は水の流れが弱く、川面は、ツルヨシ等で覆われている。魚類の生息については、落差工等での遡上阻害により回遊性の漁種は減少し、コイ科のカワムツが優占している。

福田橋から岩止橋までの中流域は、農地の中を流れる築堤河川である。河床は砂泥や砂礫で、一部に平瀬が見られるほかは、明瞭で連続したみお筋が見られない。瀬と淵が所々に見られるところには生育する漁種が多く見られ、コイ科のオイカワが優占している。

福田橋付近から下流は、かつて潟湖（浅茂川湖）であったところが埋立により造成されたもので、砂地の堤防河川である。感潮区間で勾配も緩く、市街地は下流の平地部のみであり、ゆるやかな流れの岸にはヨシ群落が見られる。この区間では、汽水性のチチブやスズキなどの多くの漁種が確認されている。

水質については、上流域では環境基準A類型を満足している。下流の水質基準点である新川橋では、BOD及び大腸菌群数が環境基準A類型を満足していない。

福田川は、下流部において網野町の中心市街地を貫流しており、網野町民にとって、KTR網野駅と新旧市街地を結ぶ歩行者動線としての機能確保や身近な自然に接するための貴重な水辺空間となっているとともに、河口部の海域が山陰海岸国立公園に含まれており、

観光客の利用も多い。

利水については、農業用水としてかんがい利用されているほか、工業用水、水道用水に利用されている。さらに、近年の水需要の増大への対応や良好で安定した水道水源を確保するための、水資源開発が求められている。

網野町の市街地周辺が丹後の中核として栄える中で、福田川は地域の社会、経済、文化の基盤を成しており、本水系の総合的な整備の意義は極めて大きい。

## ②河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川の現状、水害の発生状況及び河川利用の現状並びに河川環境の保全を考慮し、関連地域の社会・経済情勢の発展に即応し、京都府総合計画、網野町まちづくり計画などの地域計画との調整を図り、既存の水利施設などの機能の維持に十分配慮して、水源から河口まで一貫した福田川の総合的な保全と利用を図る。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、既往最大の洪水（昭和47年9月出水）に対処できるように、30年に一度程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させるよう努める。

さらに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、想定氾濫区域図等の提供、降雨時における雨量、水位等の情報提供を行うことにより地域防災活動の支援を行う。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現在の多様な生物の生息・生育環境、景観、上流域の良好な水質等の維持及び下水道整備と連携した下流域の水質の改善に努めるとともに、水道用水と諸用水の需要に対処するため、水資源の開発及び合理的な利用の促進を図る。

河川環境の整備と保全に関しては、公庄川合流点より上流は、現状の豊かな自然環境に配慮し、河川環境の改変区間を最小限にすることにより、多様な生物が生息・生育できる水辺空間の整備と保全に努める。公庄川合流点より下流は、市街地に近い身近な自然環境の確保やヨシ群落などかつての浅茂川湖を偲ばせる景観の保全に配慮しつつ、人々が水に親しめる空間の創出に努める。

また、回遊魚や水生生物の移動が可能となるよう、落差工等に魚道を設置するなど環境の連続性の確保に努めるとともに、瀬、淵、みお筋等の自然な形状の河床の整備、保全を図る。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用及び河川環境の整備と保全の観点から、河川管理施設の点検及び補修、また、浚渫等による流下能力の確保に努めるとともに、流量観測、河川水辺の国勢調査等による流況及び環境の把握を行い、良好な河川環境の保全に努める。

## (2) 河川の整備の基本となるべき事項

### ①基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、30年に一度程度発生する規模の降雨で発生する洪水のピーク流量を基に算定し、河口から0.3kmの水神橋地点において270m<sup>3</sup>/sとする。

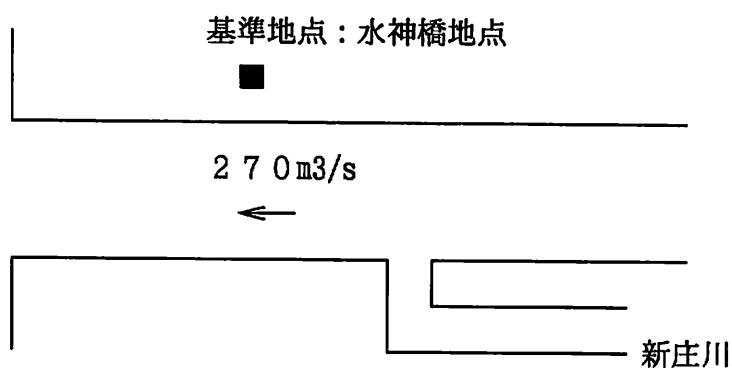
基本高水のピーク流量等一覧表 (単位：m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	河道への配分流量	洪水調節施設による調節流量
福田川	水神橋地点	270	270	—

### ②主要な地点での計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、水神橋地点において270m<sup>3</sup>/sとする。

<計画高水流量配分図>



### ③主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

福田川の主要な地点における計画高水位及び計画横断に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

河川名	地点名	河口からの距離	計画高水位	川幅
福田川	水神橋地点	0.3km	TP+ 1.28m	41m

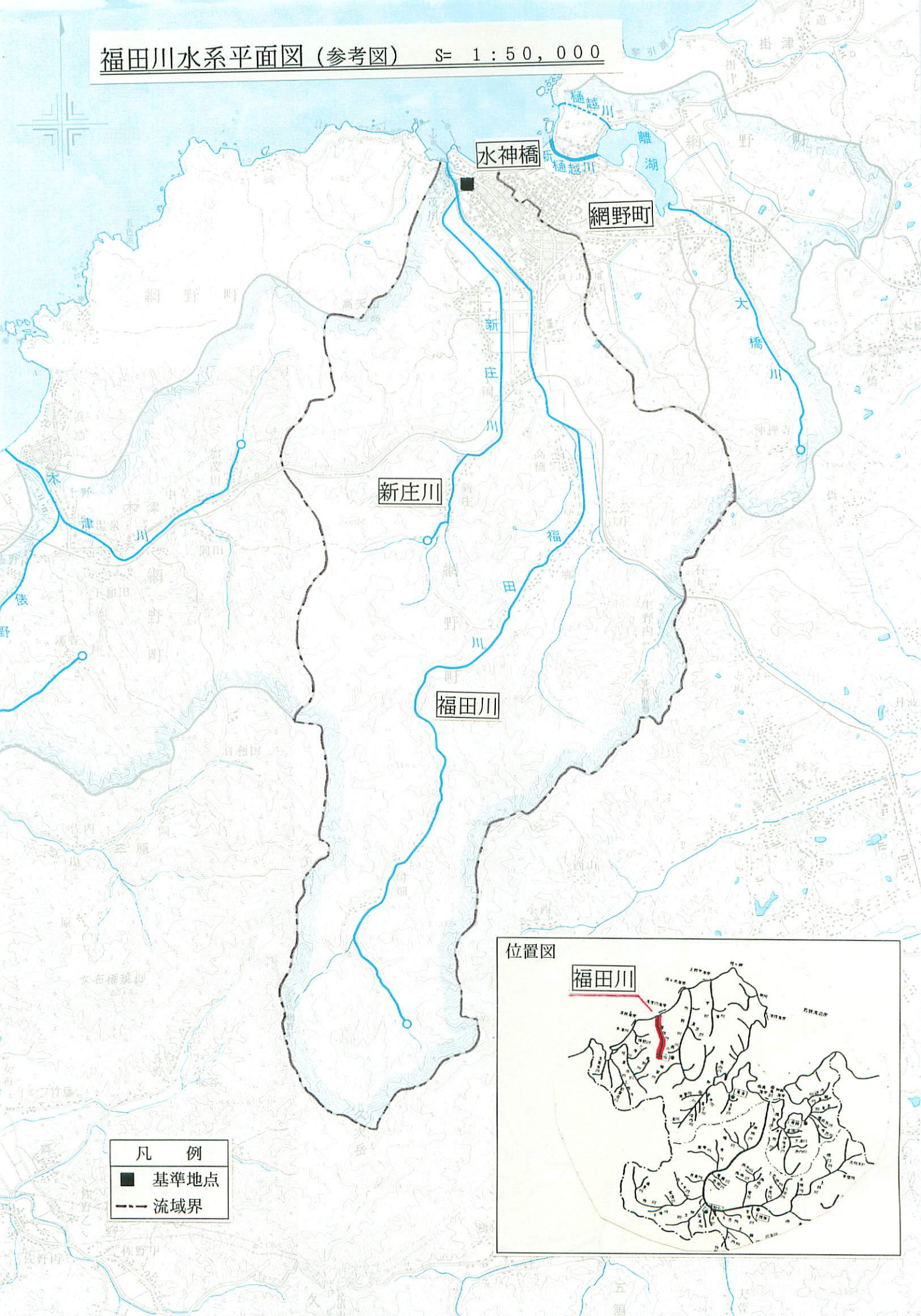
#### ④主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

網野橋地点下流における既得水利としては、工業用水0.0199m<sup>3</sup>/sのほか、かんがい面積約39haの農業用水がある。

これに対し、網野橋地点の過去5年間（平成4年～平成8年）の平均低水流量は約0.33 m<sup>3</sup>/sである。

網野橋地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、水利使用等の実態把握を行い、流水の占用、動植物の生息地又は生育地、流水の清潔の保持等を考慮し、すみやかに設定するものとする。

福田川水系平面図 (参考図) S= 1:50,000



- 凡 例
- 基準地点
  - 流域界

